

地理的分野 学習指導案（公開授業Ⅰ）

指導者 松江市立第一中学校 教諭 長谷川 孝志

1. 単元名 環境問題から考える南アメリカ州 ～持続可能な地球をめざして～

2. 単元目標

経済発展をしようとしている南アメリカ州を、環境保全との両立という視点から追究することで、南アメリカ州の地域的特色を理解する。

3. 単元構想

（1）教材について

南アメリカ大陸は広大な大地、豊かな自然や資源がある。その自然の利を生かし、先住民は自然とともにある生活を営み、豊かな文明を育んだ。その時代、人々の生活や文化文明は南アメリカ大陸に内包されていた。大航海時代以降、南アメリカの豊かな資源を求めたスペイン、ポルトガルによって植民地化され、大陸の持つ価値は内向きから外との関係が重要視されるようになってきた。その過程で南アメリカ州の豊かな自然や資源の利用、活用、開発は大きく変化するようになったと考える。

植民地時代の政治的・経済的支配は、現在の南アメリカ州に大きな課題を生じさせる結果となった。南アメリカ州諸国の経済的特色であるモノカルチャー経済は経済的自立の最初のステップである。言うまでもなくモノカルチャー経済は豊かな国への発展の停滞、人々の生活の不安定さをもたらすなど各国政府の課題であり、真の意味での自立を示すものではない。ブラジルは南アメリカ州の中にあつて、広大な大地と豊かな資源を生かし、モノカルチャー経済からの脱却、すなわち経済的自立への転換を示す経済政策をとってきた。その成果は、オリンピック開催に至り、ブラジルを学習することは南アメリカ州の歴史、現状、将来的な展望を含めた地域的特色の理解につながるものであると考える。

自国の経済的発展は国の目指す方向であり人々の願いでもある。ブラジル経済の発展の過程でインフラ整備や鉱工業の発展と引き替えに多くの森林が失われる結果となった。「地球の肺」と言われるブラジルの熱帯林は地球全体に多量の酸素を供給し人間の生産活動を支え、ブラジルの財産、経済発展の原資源という側面だけでなく、地球全体の財産であるという認識を持つべきである。したがって、地球的規模の視点からすると、大規模な森林伐採は地球環境問題を引き起こし、持続可能な社会の実現の妨げとなる。経済発展と環境保全というジレンマをブラジルは抱えているというのが現状である。

本単元はその解決方法を求めるのではなく、このジレンマについて立場をかえて多角的に追究し、より深い理解を促すことがねらいである。ブラジルの選択であるように思えるこの問題は、実はアジアの熱帯林の伐採の問題、すなわち日本も大きく関わる問題であることを意識しなければならない。また、アフリカ州、アジア州の一部も類似した状況がみられ、生徒は一部既に学習している。したがって、本単元の課題追究は資源と人々の営みの関係について一般的共通性の理解につながると思う。

（2）生徒について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導について

① 「単元を貫く問い」と単元構造

本単元では、「経済発展と環境保全」を追究の軸として設定した。モノカルチャー経済からの脱却を図ったブラジルを中心に単元を構成し、とりわけ森林伐採に視点を当てることとした。森林伐採についての理解と環境破壊に対する生徒なりの考えに依拠し、本単元の貫く問いを、「南アメリカ州の経済発展の課題は何か」とした。森林地域を活用することで暮らしを支えている現地の人々がいることや経済発展のために開発が必要であることなどの事実、熱帯林の開発が私たちの暮らしや他の国々ともつながっていることなどを関連付けた認識へと高めていきたいと考えている。

経済発展の課題をブラジルを通して追究することで、南アメリカ州全体の理解につなげるように工夫したい。

② 学習活動の工夫

生徒の課題追究の意欲を大切にしたい調べ学習の積み重ねと思考の可視化の工夫

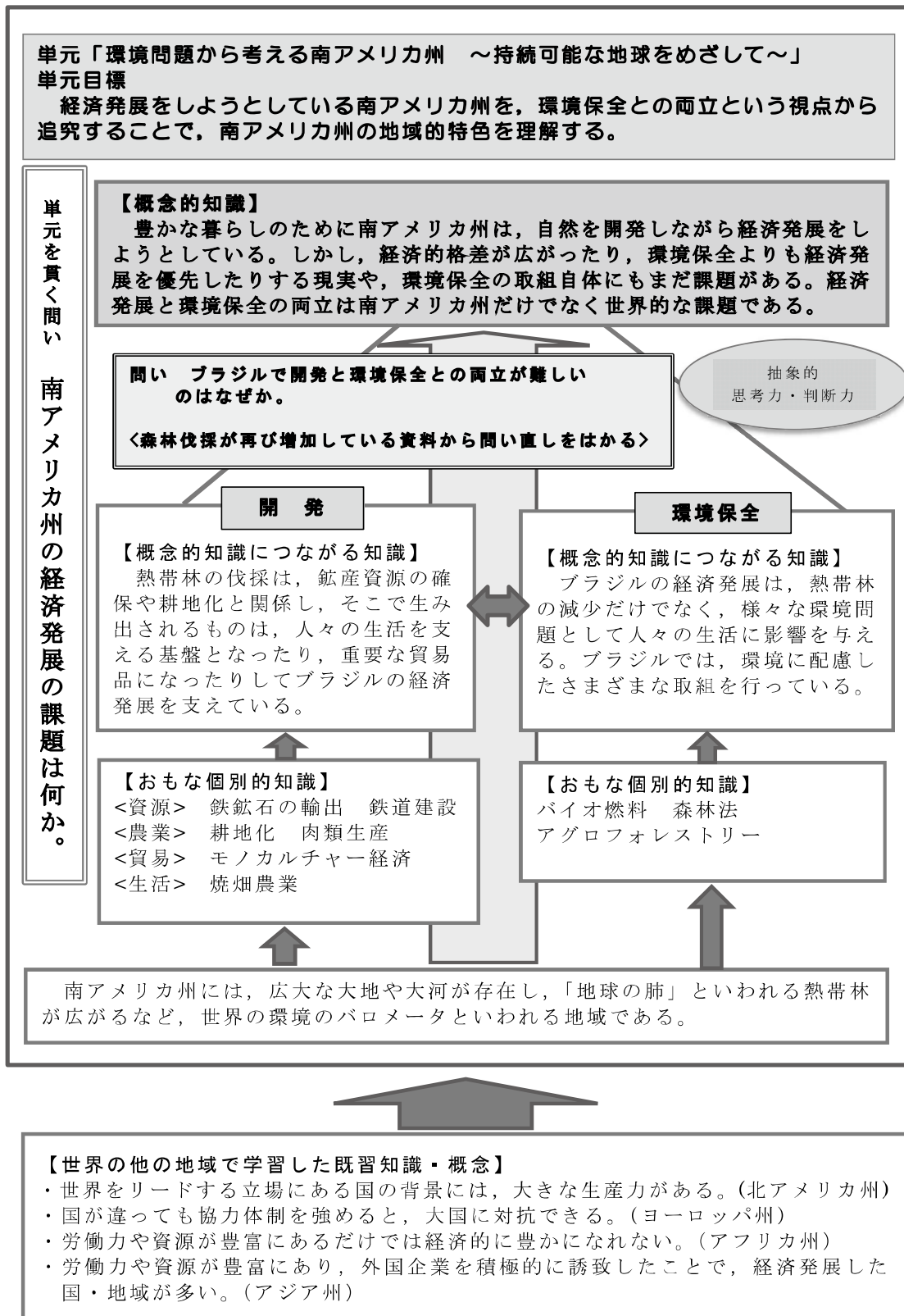
第1学年の地理的分野の分野提案にもあるように、個別的知識を活用して概念化を図ることをねらいとし、課題追究型の授業を行っていききたい。その際、生徒の課題意識を重視し、問いに対して生徒個々が予想し、その予想からテーマを設定して調べ学習を行うことを基本としたい。知識の質がより深まっていくように年間を通して継続して行うように計画している。

生徒が自分の考えをキーフレーズとして個別にカードに記入し、全体で共有したり、個別のカードを関連付け関連図にまとめたりして、生徒の思考を可視化できるように努めたい。また、KJ法などを通して、他の生徒との意見交換の場を意図的に設定し、思考が深まる手立てとしたい。

③ 生徒の意識づけ

課題追究型の学習を行うためには、生徒にとって興味や関心がある学習課題であることが望ましい。しかし、世界を対象とする学習では必ずしも生徒の関心が学習課題と結びつきにくい場合が多い。特に、南アメリカ州は生徒にとっては遠いというイメージが強い。ブラジルには日本人の移民も多く、日本とは関係も深い。本単元ではブラジルで大規模農園を所有し、現在は松江市在住の方に話を伺うなどの活動を挟みながら、統計資料だけでなく、人の言葉による資料の活用として位置付け、追究の意識を支援していききたい。

4. 単元構造図



5. 単元をとおして育成したい思考力・判断力

評価規準		評価資料
B評価	手立て	
<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州で経済発展と環境破壊を関連付けて考察できる。 ・ブラジルで経済発展と環境保全の両立が難しい理由を考えて、自分の言葉で説明することができる。 	関連付けや自分の言葉での説明が難しい生徒には、今までに作成した関連図やキーワードに着目するように促す。	発言 ワークシート

6. 単元の指導計画（全7時間） ■教師のはたらきかけ ●生徒によるはたらきかけ ◎評価活動

時	「問い」とおもな学習活動	思考力・判断力を育成する手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> ○有名なサッカー選手や観光地など、生徒のアンケート結果から南アメリカ州の写真を見てイメージをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問い：南アメリカ州はどのような地域だろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○地図や雨温図から、地形や気候の特色を読み取るとともに、広大な大地や大河の存在、「地球の肺」といわれる熱帯林の存在など、南アメリカの自然環境の特色をつかむ。 ○百合澤さんに、熱帯林やブラジルの魅力について話を聞くとともに、ブラジルの経済発展の様子を知る。 ○熱帯林がブラジルの人々の生活と深く関わっていることに着目し、単元を追究する見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ■事前アンケートをもとに身近な話題や観光地などを紹介し、本時の問いにつなげる。 ●◎個人で読み取った後に、ペアで確認することで、読み取りを確かなものにする。 ■島根在住のブラジル生活経験のある方を紹介し、遠く離れた南アメリカ州が、自分たちの生活とつながっている地域であるという実感をもたせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ブラジルで森林伐採が進んでいる様子から問いをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問い：ブラジルで森林伐採が進むのはなぜか。 (予想する・調べる) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○K J法で予想されることを出し合い、グルーピングする。 個人 → グループ ○学級全体で共有しながら 複数のテーマから考えられるように学級全体で整理する。 (例) 農業 資源 生活 外国とのつながり 等 ○資料をもとにグループで分担して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■映像を用いて、森林伐採の進行状況を視覚的に見せることで、問いにつなげる。 ■森林伐採面積の推移グラフから、森林伐採の現状を統計資料でもつかませる。 ■今までの4つの州の学習で獲得した経済発展のキーワードを提示することで、どのような視点から調べることが必要なのか、生徒の見方・考え方を広げる。 ■熱帯林の伐採に最も関係が深いと考えるものを予想させ、調べるテーマを決めさせる。
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問い：ブラジルで森林伐採が進むのはなぜか。 (調べる・まとめる) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○資料をもとにグループで分担して調べる。 ○学級全体で共有する。 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・現地では、生活のため焼畑農業が行われている。 ・鉄鉱石などの鉱産資源を日本はブラジルから輸入している。 ・ブラジルには豊かな鉱産資源があり、その採掘のため熱帯林の伐採が進んでいる。 ○関連図にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループで分担して調べ、それを持ち寄って考えることで、自分の考えを広げ深める。 ■複数の資料から調べさせ、批判的思考を働かせる。 ◎キーワードにして関連図にまとめることで、焦点化と可視化を図り、相互に確認する。

4 ・ 5	<p>○熱帯林の減少は、ブラジルの人々の生活にも影響を与えることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問い:ブラジルではどのような環境保全の取組があるのか。</p> </div> <p>○ブラジルで行われている、環境保全の取組をグループで分担して調べる。 (例) ブラジル政府の取組、バイオ燃料の生産植林 など</p> <p>○調べたことをキーワードにして発表する。</p>	<p>■水資源が豊富なブラジルでおこった干ばつの資料から、生徒の思考を揺さぶる。</p> <p>■熱帯林の伐採が与える多岐にわたる影響に気づかせ、多様な環境保全の取組に着目させる。</p> <p>■環境保全の取組に関する複数の資料から考えさせる。</p> <p>◎調べたことを地図やキーワードでまとめることで焦点化と可視化を図り、相互に確認する。</p>
6 本 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問い:ブラジルで経済発展と環境保全との両立が難しいのはなぜか。</p> </div> <p>○ブラジルで環境保全の取組を積極的に行うと、困ることは何か考える。個人 → グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えたことをグループで出し合い、グルーピングする。 ・グループで考えたことをフリップカードに記入する。 <p>○全体共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出た意見をホワイトボード上でまとめて構造化する。 <p>○ブラジルで経済発展と環境保全との両立が難しいのはなぜか考える。</p>	<p>■熱帯林の伐採の影響や、環境保全の取組があるにも関わらず、熱帯林の伐採が進んでいる資料から本時の問いにつなげる。</p> <p>■教室に「熱帯林の伐採」や「環境保全の取組」についての掲示をし、今までの学習を振り返って考えさせる。</p> <p>●学級全体で意見を出し、まとめることで多面的に考えることができるようにする。</p> <p>■生徒の意見を教師がコーディネーターしながら構造的にまとめる。</p>
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問い:ブラジルの問題は、南アメリカ州の他の国でも見られるのか。</p> </div> <p>○南アメリカ州全体に広げて考え、開発と環境から見た南アメリカ州の地域的特色をまとめる。</p> <p>○単元を通してふりかえりをおこない、南アメリカ州に対する認識の変化(深化)に気づく。</p>	<p>■資料から南アメリカ州の他の国を調べさせ、ブラジルとの共通点や相違点を読み取らせる。</p> <p>◎学習前と学習後の、自分の変化(深化)に気づかせることで、その後の学習への意欲へとつなげる。</p>

7. 本時の学習

(1) ねらい

ブラジルで経済発展と環境保全の両立が難しい理由を考えて、自分の言葉で説明することができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1. 前時の振り返りをする。 2. 近年、森林伐採が再び増加している資料から本時の問いをもつ。	○前時に調べた課題を提示する。 ■森林伐採の影響や、環境保全の取組があるにもかかわらず、熱帯林の伐採が進んでいる資料から問いをもたせる。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 問い：ブラジルで経済発展と環境保全との両立が難しいのはなぜか。 </div> 3. ブラジルで環境保全の取組を積極的に行うと、困ることは何か考える。個人 → グループ ・個人の考えを付せんに書く。 ・個人で考えたことをグループで出し合い、グループピングする。 ・グループで考えたことをフリップカードに記入する。 <記入例> ・農産物の増産ができない。 ・輸出品が減り経済発展がにぶる。 ・植林を進めると土壌侵食が進む。 ・バイオ燃料を増やすと森林破壊につながる。 ・資源を輸入している先進国にも影響がある。 4. 全体共有 生徒から出た意見をホワイトボード上でまとめて構造化する。 (例) 現地の人々の生活への影響・環境への影響・日本への影響 → 経済発展と環境保全のジレンマに気づく 5. 百合澤さんの話を聞く。	■教室に「熱帯林の伐採」や「環境保全の取組」についての掲示をし、今までの学習を振り返って考えることができるようにする。 ●KJ法を用いて、多様な意見の表出と集約をする。 ●◎学級全体で共有するため、グループの意見をフリップカードにまとめる。 ●学級全体で意見を出しまとめることで多面的に考える。 ■生徒の意見を教師がコーディネートしながら、構造的にまとめる。
まとめ	6. ブラジルで経済発展と環境保全との両立が難しいのはなぜか自分の考えを説明する。 (例) 豊かな暮らしのために自然を開発しながら経済発展をしようとしている。しかし、経済的格差が広がったり、環境保全よりも経済発展を優先してきた。そして、環境保全の取組にもまだ課題がある。	■百合澤さんの話もふまえ、「ブラジルで経済発展と環境保全との両立が難しいのはなぜか」考えるように促す。 ■教師が生徒の発言をまとめる形で概念化を図るようにする。

(3) 期待される生徒の姿

- ・ブラジルで環境保全の取組を積極的に行うと、困ることは何か考えることで、経済発展と環境保全の関係性に気づくことができる。
- ・ブラジルで経済発展と環境保全の両立が難しい理由を考えて、自分の言葉で説明している。